NISSAY ASSET MANAGEMENT

週間市場レポート（2022年10月31日～11月4日）

1）先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/10/28	先週末 2022/11/4	前週末比 (%)
日経平均株価（円）		27,105.20	27,199.74	0.35 ↗
ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）		1,899.05	1,915.40	0.86 ↗
ダウ工業株30種平均（ドル）		32,861.80	32,403.22	▲ 1.40 ↘
Ｓ＆Ｐ500種指数		3,901.06	3,770.55	▲ 3.35 ↘
ナスダック総合指数		11,102.45	10,475.25	▲ 5.65 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,613.02	3,688.33	2.08 ↗
Ｓ＆Ｐ/ＡＳＸ300指数		6,762.04	6,868.76	1.58 ↗
上海総合指数		2,915.93	3,070.80	5.31 ↗
MSCI AC アジア（除く日本）※		696.01	730.87	5.01 ↗
東証ＲＥＩＴ指数		1,964.74	1,949.19	▲ 0.79 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		713.05	700.78	▲ 1.72 ↘
ＡＳＸ300 ＲＥＩＴ指数		1,325.40	1,326.10	0.05 ↗
グローバルＲＥＩＴ（除く日本）※		169.30	166.96	▲ 1.38 ↘
日本10年国債（%）		0.248	0.257	0.009 ↗
米国10年国債（%）		4.012	4.158	0.146 ↗
ドイツ10年国債（%）		2.103	2.295	0.192 ↗
英国10年国債（%）		3.478	3.537	0.059 ↗
ドル/円		147.60	146.62	▲ 0.66 ↘
ユーロ/円		147.00	145.99	▲ 0.69 ↘
英ポンド/円		171.37	166.84	▲ 2.64 ↘
豪ドル/円		94.58	94.87	0.31 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,433.66	2,398.24	▲ 1.46 ↘
ＷＴＩ原油先物（ドル）		87.90	92.61	5.36 ↗
ＣＲＢ指数		272.62	287.55	5.48 ↗

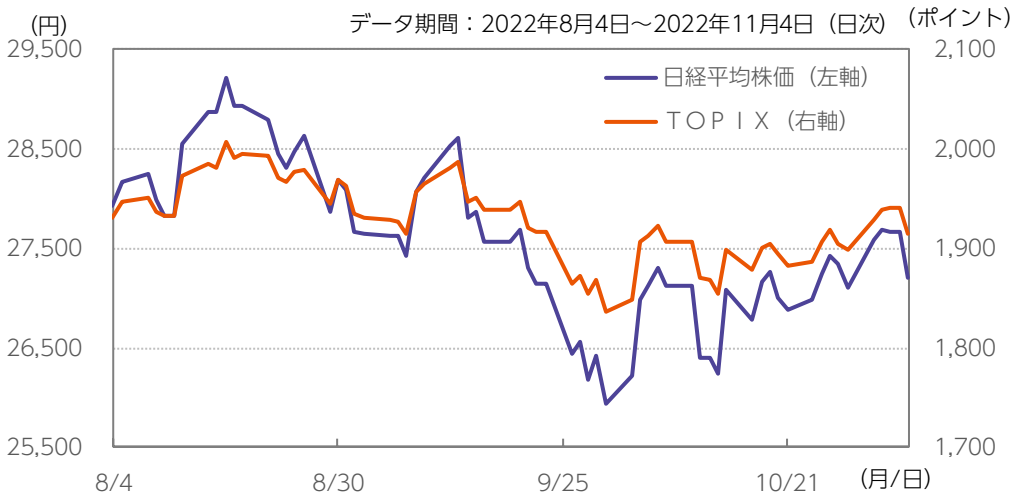
出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース　＊ ▲はマイナスを表します。

2）日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。

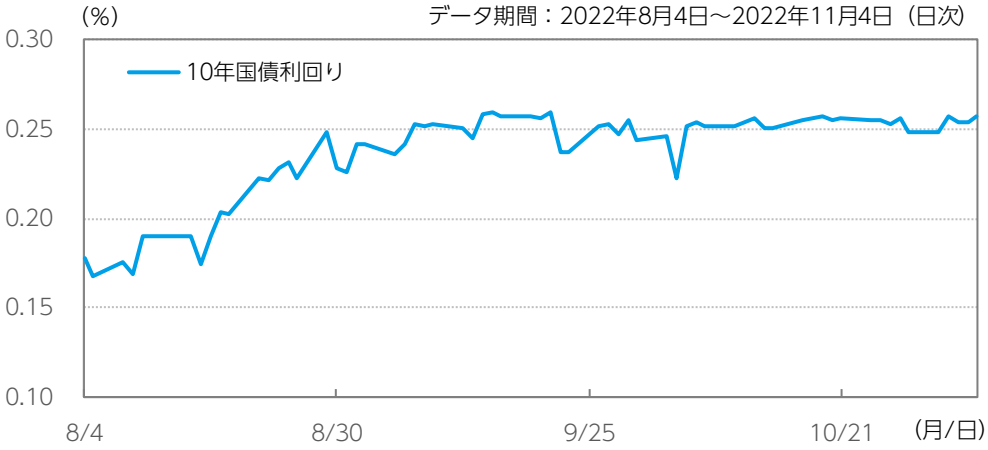
主要ハイテク企業の決算が好感され、前週末に米国株式市場が大幅上昇した流れを受け、週初は3営業日ぶりに上昇しました。その後は、米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果発表を控え、様子見ムードから売り買いが交錯したものの、FOMC後のパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長の会見を受け、早期の利上げ停止への期待が遠のくと下落し、週間では前週末比で横ばいとなりました。



≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。

FOMCの結果発表を控え、内容を見極めたいとして売買を見送る動きが優勢となりました。週末にかけて、FRBの金融引き締めが長期化するとの観測が高まり米長期金利が上昇すると、国内金利も上昇したものの、日銀が許容する長期金利の変動幅の上限である0.25%近辺では買いも入りやすく（利回りは低下）、週間では前週末比で横ばいとなりました。

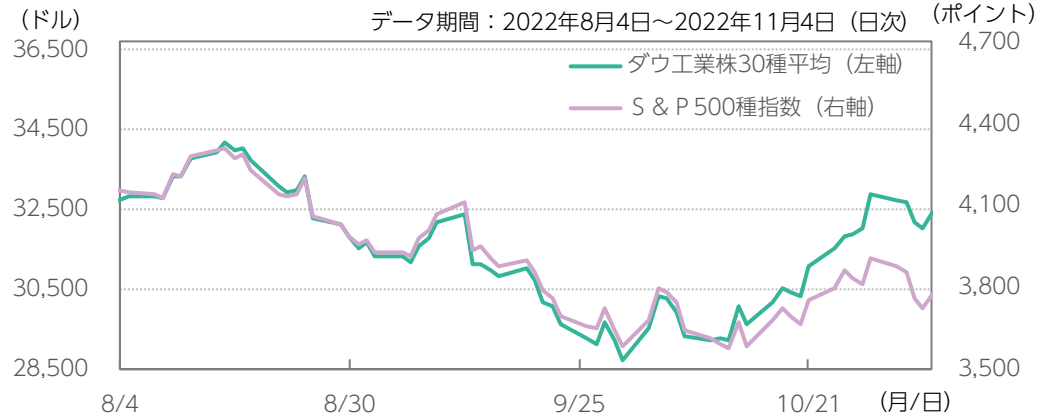


3）米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。

FOMC後の会見で、パウエルFRB議長がインフレ抑制に改めて強い意志を示すと、FRBによる金融引き締めの長期化への警戒感が強まり下落しました。週末に発表された10月の雇用統計では、非農業部門雇用者数の増加数が市場予想を上回った一方、失業率は前月より悪化し、FRBの金融引き締めペースが緩むとの見方が広がり上昇したものの、週間では下落となりました。

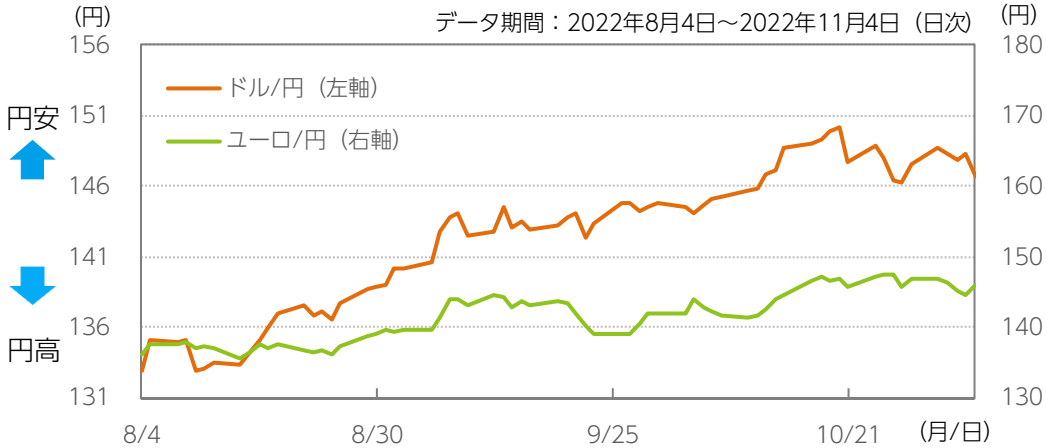


出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4）外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。

FOMCの結果発表を控え、FRBの今後の金融政策の思惑が交錯するなか、日米の金利差の動向を受け一進一退となったものの、週末に発表された10月の米雇用統計が強弱入り混じる内容となったことから、持ち高を調整する目的の円買いドル売りが進みました。



5）今週の見通しについて

先週の米国株式市場は、FRBの金融引き締めが長期化するとの警戒から、前週末比で下落しました。

4日（金）に発表された10月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+26.1万人と市場予想（同+19.3万人）を上回りました。また、失業率は3.7%と前月から悪化し、強弱入り混じる結果となりました。パウエルFRB議長は11月のFOMCで、利上げ幅の縮小時期について、次回または次々回での可能性に言及しつつも、「金利の最終的な水準は従来の予測よりも高くなる」と発言しています。株式市場は、今後の利上げ幅や最終的な政策金利水準などをめぐる思惑から、不安定な値動きが予想されます。

今週は、10日（木）に10月の米消費者物価指数の発表を控え、週前半は様子見ムードが高まりそうです。9月の前年同月比+8.2%からさらに伸び率の鈍化が見られ、次回12月FOMCで利上げ幅を縮小するとの期待が高まれば、株式市場は大きく上昇する可能性もありそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

＜設定・運用＞

ニッセイアセットマネジメント株式会社

商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター　0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ　https://www.nam.co.jp/